



ふくおか【Good👍】農業人100
主な農産物／ナシ、養鶏

角 洋一郎さん (35歳) (営農地／筑後市前津)

人生を楽しむためには急がば回れ

《就農のきっかけ》

就農することは至極当然と思っていた…

農家の長男であった角さんは、小さい時から「跡継ぎは自分だ」と、ごく当たり前のように感じていました。当時角さんの実家では、ナシ、ブドウ（現在は、栽培していない）、養鶏の複合経営で、家族以外の作業員も多く、みんな目が回るほどの忙しさでした。毎日、一生懸命家族のために働いている父母を、身近に見ながら育った角さんは、小さい時から農業に対して、跡継ぎの自覚がある一方で、「普通」の家庭に比べ、農家は忙しい、休みがない、余裕がないといった印象も持っていました。角さんは、地元八女の農業高校を卒業後、千葉大園芸学部別科コースで、果樹について学んだ後、20歳で就農しました。しかし、就農当初は、「自分は、角家にとっての作業員の一人」の感覚でしかなく、なんとなく過ぎていく毎日になにか鬱屈としたものを感じていました。

《これまでの過程》

回り道が教えてくれた農業という仕事

鬱屈とした日々が続いていた26歳のある日、一念発起し農業を辞めてレンタカー会社に就職することを決意する角さん。結局、1年半の会社員生活の後、家業に戻ることにになりますが、「振り返ると、外で働いた経験は大きかった。」と角さん。当時の就職先は、小さな会社で、営業や車の手配から経理や雑務等すべてをこなす毎日でした。それまで、仕事に対して「父親が優しかったからあまり仕事で言われたことがなくて…」というようにどこか甘えがあったといいます。そのため、就職先ではよく怒られたそうです。同時に、どんな仕事でも主体性を持って取り組み、仕事はチームワークが大事だと叩き込まれたといいます。そんなある日「そうか分かった。ここでの経験は、農業と共通するものだ」と悟る瞬間があったそうです。退職後、二度目の就農をしてすぐに母親から「勝手に出て行って迷惑をかけたのだから、これから一緒に仕事をしていくみんなにキッチンと謝りなさい。」と言われたそうです。父親からは、特に怒られることはなかったそうですが、主体的に農業に取り組むようになった角さんに対し、次第にナシの経営を任せるようになってきたそうです。最近では、以前より仕事の作業性・効率性、生産性などを意識し、実践するようになったといいます。現在、ナシ園の規模拡大を進めており、地域の平均を超える2.3haを営農しています。



プロフィール

- 家族構成／本人、妻、子ども2人
- 前職／レンタカー会社
- 営農年数／約14年
- 従業員数／常時1名他 臨時4名
- 耕作(経営)面積／ナシ2.3ha、養鶏3,500羽
- 販路／JA共販、直売

《これからの展望》

新しい農家形態への挑戦 ～雇用の活用～

角さんの農業経営では、ナシと養鶏で多くの作業員を雇っていますが、いずれ迎える経営委譲の準備として雇用についてよく考えるそうです。また、角さんは、別に就職されている奥様がおられますが、農家の嫁であっても農繁期以外は、ほとんど夫婦で農業を行うことはなく、逆に家族の時間を作るため、奥様の休日に合わせて仕事を調整することもあるそうです。角さんは、自分の苦悩時代を知る奥様との出会いで世界観が広がったそうです。また、このことは、将来の農業後継者対策の一助にならないかともいいます。これまで「農家の嫁＝同居、家業の手伝い」の従来の考え方では、今の時代「農家の嫁になるには、ハードルが高いのではないか」、「妻が別の仕事を持っていても可能な農業経営には、どのような雇用管理が必要なのか」に強い関心があるといいます。また、角さんは、「農業は、人の役にたって、しかも喜ばれる素晴らしい仕事」だといいます。そんな関係を感じながら、素晴らしい農業にもっと多くの人に関心持ってもらい、身近に感じてもらいたいというんな農業体験や食育活動にも熱心に取り組まれています。



Good👍 成功のためのポイント

今までの農業の価値観に左右されると苦しくなる。無理してがんばると続かなくなり、燃え尽き症候群にもなるかもしれない。自分のペースで人生を楽しむようにやってほしいです。農業を始める人へおすすめの本は(「人を動かす」D・カーネギー著 山口博訳)です。